

一杯のトツクに——宮城県亘理郡山元町にて

金知栄

真夜中に被災者支援隊が集まり  
東北地方に向かって走る

怒り狂う怪物のような津波が  
数百年の歴史の年輪が刻まれた町を襲った後  
生活の痕跡は消え  
数万の人々が恐怖に慄き  
時空の停止したところに  
胸裂ける沈黙のみが深く立ち込めている

陸地にうち上げられた大小の漁船が  
道のど真ん中に立ち止まり  
つぶれた自動車と生活用品が  
破壊された無数の家とともに  
瓦礫の山となっている光景は  
抽象画なのだろうか  
わが目を疑う

宮城県亘理郡山元町 山下中学校の避難所  
テントを張り大鍋に火をかけ  
三〇〇人分のトツクをふるまった

愛する家族と家と

生活の基盤と日常生活と

追憶までもごっそり攫ってしまった

悪夢のような現実を生きる被災者たち

■ 詩の作者 ■

金 知栄 (キム・ジョン)

1945年、韓国・慶尚北道大邱市テグに生まれる。1970年、渡日。2014年、第1詩集「ヤクサン葉山のつつじ」刊。詩誌「チョンソリ」会員。6・15共同宣言実践民族共同委員会日本地域委員会代表委員。「民族時報」主筆。在日韓国民主女性会会長。

気苦労ではらわたのちぎれる思いであろう  
潮風に真つ黒に焼けた老人の顔に  
車椅子のお婆さんのしわだらけの顔に  
振り向かず前向きに生きようと誓う  
中年女性の陰りある顔に  
恥じらうように腕を受け取る  
女子中学生の白く透き通るような顔に  
一瞬 明るい笑みが浮かぶ

「おっし」

生まれて初めて  
地球の自転を全身で感じたであろう人に  
トック一杯が慰めになるのか  
無力感はあるけれど  
その一言がただ嬉しくありがたく  
目頭が熱くなる

温かい心が飛び交うそこには  
日本人、朝鮮人を分ける  
国境はなかった

(二〇一二年八月)

——二〇一二年三月十二日の東日本大震災と津波に際して

\*トックは韓国のお雑煮

金知栄詩集「葉山ハヤシのつつじ」(コールサック社、2014年3月刊)より

